

“新たな時代の指導者を育成、支援する財団法人”

「ジョン B. ツー博士財団 ; Dr. John B. Tsu Foundation」

故、ジョン B. ツー博士の功績を称え、2005年に米国にて設立された非営利財団法人であるジョン B. ツー博士財団は、生前、彼が生涯を通じて将来を担う若者、特に、アジア系アメリカ人及びパシフィック アイランダー系アメリカ人の若者が人の為に尽くす公僕精神を養い、公共的又教育分野で活躍する機会に恵まれる為に、教育と社会との連帯を重んじる精神を磨きあげ、社会に貢献する役割を果たす推進力となり、その為に自己研鑽をし、公僕精神を充実化することが大事であるとの理念の基、教育者としてこの重要性を世に向かい啓蒙してきた。又、米国の政界指導者の良きアドバイザーとしてより良い国際関係の促進にも寄与する人生を過ごされた。故、ツー博士の公僕の哲学、理念とその具現化の為の行動力は、今日の米国におけるアジア系アメリカ人が政界、教育分野、経済界、文化、芸術分野で卓越した優秀なる人材を育て、又、更に将来性のある人材を育てつつある基盤を構築したと断言しても過言ではない。この意味で、故、ジョン B. ツー博士の妻であるスーザン F. ツー博士と故、ツー博士の協力、支援者及び友人達が国境を越えて集い、ジョン B. ツー博士財団を設立するに至る。

時代は大きく一廻りし、新たな社会の構築に向け人々の精神思考も大きく変遷してきている。米国における初のアフリカ系アメリカ人の大統領の誕生、人種差別の壁を超えた連帯意識と行動の波は、いろいろな過去の歴史の負の遺産を見直し、二十一世紀とその先の時代をどのような社会にすべきかを視野に入れながら行動の波はそのうねりを確かに強くしてきている。その波の動きは、第二の“ルネサンスの夜明け”とでも称される次世代への意義ある幕開けとなる。又、その為に人類は己と社会（国、世界）をどのように結びつけていくべきかを自問し社会に貢献できる資質を磨き上げ、その為のロード マップをどのように描いていけるかに我々の未来像が左右されると言われていることを以前にもまして自覚してきている。故、ツー博士は、この様な社会、世界観を抱きながら若者の未来に期待し、その為に、特に教育と国際関係促進の重要性を重視して其々が己の才能を発揮する環境と機会の構築の重要性を唱え続けてきた。

この度、ジョン B. ツー財団法人は、故、ツー博士の理念と意志の具現化のひとつとして、当財団法人の理事、副会長でもある Dr. Stanley Wang(スタンレー ウオン博士)のご好意ある寄付金により、今年度は、4年生大学に入学する学生に奨学金、一人あたり \$ 2,000 を数人に授与する運びとなり、今年 5 月末までに奨学金の申請受付を行い、授与される学生の発表は今年 7 月にジョン B. ツー博士財団法人の集いで発表されることになっている。

故、ジョン B. ツー博士は旧満州国の出身で、国費留学生として東京大学法学部に学び、卒業後、1950年代に米国に渡り、ジョウジタウン大学で政治学修士号を取得後、ニューヨーク市のフォダム大学にて政治学、国際関係論の博士号を授与され、ニュージャージー州のシートン フォール大学アジア研究学部の学部長として教鞭をとる傍ら、米国の公立学校で最初に、日本語を正式な学科目として導入したことで知られ、サンフランシスコ大学、スタンフォード大学等でも教鞭をとった。教育界の公的面での活躍では、ジョージ W. ブッシュ大統領政権下で、米国連邦政府教育省長官代理（太平洋環地域、米国西部地域担当）として教育行政に係わり、その関係で日本における米国大学の日本分校の設立にも、米国国際経済政策財団と協力し日本分校の設立に関与した。

米国政界との関係においては、ニクソン政権時代に、ジョージ W. ブッシュ元大統領（米中国交回復後の初代米国駐中国大使）、キシンジャー元、国務省長官と共に“米中国交回復”政策に従事した。故、ジョン B. ツー博士は、国際関係の分野でも多くの功績をあげ、日米関係でも田中角栄政権下の内閣官房長官で“日中国交回復”の立て役者の一人である故、二階堂進氏、元、総理大臣羽田孜氏、元、大蔵大臣、厚生大臣、林義郎氏等多くの日本の政界の指導者との間で長年の友好関係を構築し日米関係の促進に寄与した。又、米国連邦議会上院、下院の指導者（米国連邦議会上、下院指導者であった、元、下院議長並びに米国駐日大使を務めたフォレー氏、米国民民主党下院院内総務ゲップハート氏、元、上院議員を務め、後に米国連邦政府副大統領となったゴア氏、米国連邦議会上院院内総務、トレント ロット氏等と共に）と日本の政界の指導者（元、内閣官房長官二階堂進、元、内閣総理大臣羽田孜、元、大蔵、厚生大臣林義郎氏等）により設立された財団法人米国国際経済政策財団の第四代理事長としても、日米関係の教育、通商、福祉の分野で二国間の多くのプロジェクトに関与、貢献してきた。又、ジョージ W. ブッシュ元大統領政権下においては、大統領アジア・太平洋環地域諮問委員会の委員長として、米国連邦政府のアジア政策及びアジア系及びパシフィック系アメリカ人の地位向上の為に貢献した。

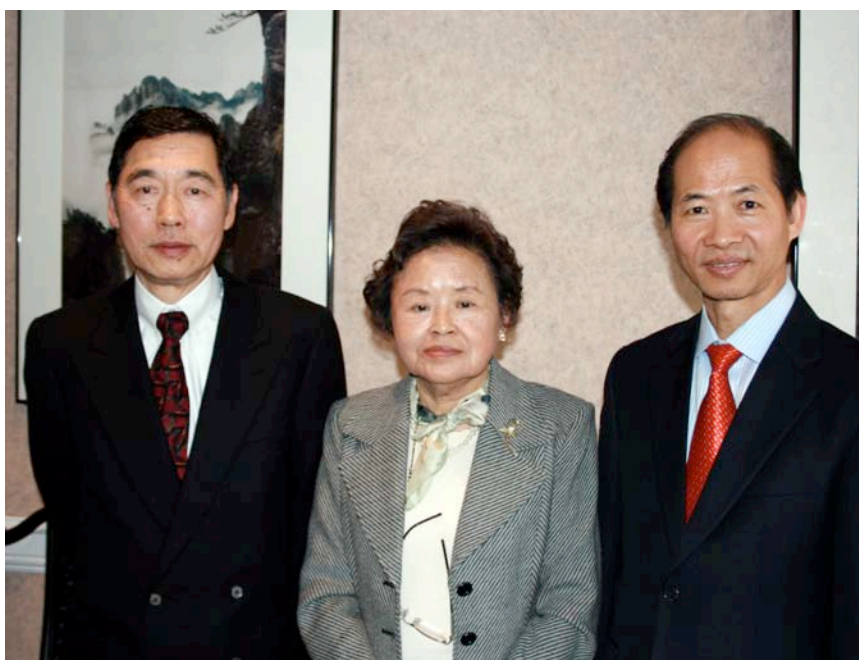
この様な多彩な体験と経験を通じ、故、ツー博士が備え持った英知と理念を通じ、故、ジョン B. ツー財団はその活動を展開するに至り、多くの支援者、協力者の参画のもと当該財団法人は、米国でも人種の壁を越えて設立された最つともユニークな財団法人として若者の将来に其々の能力を発揮し、社会に貢献する機会を創るナビゲーターとサポーターとしての役割を本財団法人は目指しています。故、ジョン B. ツー博士の妻であるスーザン F. ツー博士は、この財団の設立と運営に名誉理事長として、献身的に関与されており、彼女の今後の活動も意欲的であり財団活動の充実化に大きく貢献するものと期待されている。

この簡単な財団活動の紹介に当たり、筆者は長年親交を深めさせて頂き、多くの教訓を故、

ジョン B. ツー博士から学び得たことを幸せに思う一人であることを付け加へておく。

ジョン B. ツー博士財団法人
理事兼副会長（アジア・太平洋環諸国担当）

米国国際経済政策財団
理事長代行兼事務局長
片岡佑介



(注)：写真紹介（当該財団法人による奨学金授与に係わる記者会見時の
当該財団理事会代表者達）

左より、スタンレー ウオン博士、スーザン F. ツー博士、
バシリオ チェン氏（ジョン B. ツー博士財団法人理事長）。
写真撮影及び中国語、英文記事は、Mr. Jeff Lu による。